

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年4月4日 (2013.4.4)

【公表番号】特表2012-524616(P2012-524616A)

【公表日】平成24年10月18日 (2012.10.18)

【年通号数】公開・登録公報2012-042

【出願番号】特願2012-507272(P2012-507272)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

A 6 1 M 25/09 (2006.01)

A 6 1 B 17/32 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/00 3 2 0

A 6 1 M 25/00 4 5 0 B

A 6 1 B 17/32 3 3 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月8日 (2012.3.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遠位端および近位端を有するガイドワイヤ本体と、
該ガイドワイヤ本体の該遠位端近傍の拡張可能アンカと、
該拡張可能アンカに隣接してガイドワイヤに配置される刃であって、該ガイドワイヤ本体内における後退構成と、該ガイドワイヤ本体の外側に延出する刃先を有する展開構成とを有する、刃と
を備える、ガイドワイヤ。

【請求項 2】

前記ガイドワイヤ本体は、100cm乃至500cmの範囲の長さ、0.4mm乃至5mmの範囲の直径とを有する、請求項1に記載のガイドワイヤ。

【請求項 3】

前記ガイドワイヤ本体は、中実コアを有する、請求項2に記載のガイドワイヤ。

【請求項 4】

前記ガイドワイヤ本体は、中空である、請求項2に記載のガイドワイヤ。

【請求項 5】

前記拡張可能アンカは、膨張可能バルーンを備える、請求項1に記載のガイドワイヤ。

【請求項 6】

前記拡張可能アンカは、展開可能機械的構造を備える、請求項1に記載のガイドワイヤ。

【請求項 7】

前記刃は、拘束から解放されるときに、開放するように偏向される、請求項1に記載のガイドワイヤ。

【請求項 8】

前記後退構成と前記展開構成との間で前記刃をシフトさせる機構をさらに備える、請求項1に記載のガイドワイヤ。

【請求項 9】

前記刃は、前記拡張可能アンカに対して遠位に配置される、請求項 1 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 10】

前記刃は、前記拡張可能アンカ内に配置され、該アンカは、第 1 の半径方向に開放し、該アンカは、該第 1 の半径方向から放射状にオフセットされた第 2 の半径方向に開放する、請求項 1 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 11】

前記ガイドワイヤ本体は、組織貫通先端を有する、請求項 1 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 12】

前記ガイドワイヤは、操縦可能先端を有する、請求項 1 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 13】

遠位端および近位端を有するガイドワイヤ本体と、

該ガイドワイヤ本体の該遠位端近傍の拡張可能アンカであって、該拡張可能アンカは、該ガイドワイヤ本体の外部表面に適合する後退構成と、遠位表面および近位表面を有する拡張構成とを有し、該近位表面は、周辺縁および該周辺縁内に凹面を有し、該周辺縁が、組織表面に対して近位に牽引されることが可能であることにより、該凹面は、該ガイドワイヤ本体の周囲に作業空間を画定する、拡張可能アンカと

を備える、ガイドワイヤ。

【請求項 14】

前記ガイドワイヤ本体は、100 cm 乃至 500 cm の範囲の長さ、0.4 mm 乃至 5 mm の範囲の直径とを有する、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 15】

前記ガイドワイヤ本体は、中実コアを有する、請求項 14 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 16】

前記ガイドワイヤ本体は、中空である、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 17】

前記拡張可能アンカは、膨張可能バルーンを備える、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

。

【請求項 18】

前記拡張可能アンカは、展開可能機械構造を備える、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

。

【請求項 19】

前記拡張可能アンカは、1 mm 乃至 20 mm の範囲の周径を有し、前記凹面は、0.05 ml 乃至 1 ml の範囲の体積を有する、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 20】

前記凹面は、前記カテーテルシャフトに取着された頂部と、該カテーテルシャフトの周りにあって該頂部に対して近位に略同心円状に配置される周辺基部とを有する略円錐形を有する、請求項 19 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 21】

前記ガイドワイヤ本体は、組織貫通先端を有する、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 22】

前記ガイドワイヤ本体は、操縦可能先端を有する、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【請求項 23】

前記拡張可能アンカは、柔軟な本体を有するバルーンを備える、請求項 13 に記載のガイドワイヤ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

カテーテル本体の特定の寸法は、上述されている。拡張可能アンカは、一般的には、1 mm乃至20 mmの範囲の周径を有し、アンカによって提供される空洞は、0.05 mm乃至1 mmの範囲の体積を有するであろう。空洞は、通常、カテーテルシャフトに取着された頂部と、頂部に対して近位の場所において、カテーテルシャフトを中心として略同心円状に配置される周辺基部と、を伴う、略円錐形を有するであろう。ガイドワイヤは、鋭利先端等の組織貫通先端、電気外科的先端等を有してもよい。代替として、または加えて、ガイドワイヤ本体の遠位先端は、操縦可能であってもよい。

例えば、本発明は以下の項目を提供する。

(項目1)

第1の身体内腔から第2の身体内腔までデバイスを前進させる方法であって、該方法は

該第1の身体内腔を通して標的場所までガイドワイヤを前進させることと、

標的部位において該第1の身体内腔の壁を通し、該第2の身体内腔の壁を通して該第2の身体内腔内へと該ガイドワイヤを遠位に貫通させることと、

該第2の身体内腔内において該ガイドワイヤ上でアンカを拡張することと、

該ガイドワイヤを近位に引張することであって、それにより、張力を該ガイドワイヤに印加し、該拡張されたアンカを該第2の身体内腔の壁に係合させて、該壁を該第1の身体内腔の壁に対して牽引することと、

張力が該ガイドワイヤに印加された状態のまま、該第1の身体内腔から該第2の身体内腔内へと該ガイドワイヤ上をツールを前進させることと

を含む、方法。

(項目2)

上記第1の身体内腔は、患者の食道内にあり、上記第2の身体内腔は、胆管、胆嚢、膀胱、膵臓、肝臓、膵管、嚢胞、偽性嚢胞、膿瘍、および肝臓から成る群から選択される、項目1に記載の方法。

(項目3)

上記第1の身体内腔は、胃または十二指腸を含み、上記第2の身体内腔は、偽性嚢胞を含む、項目2に記載の方法。

(項目4)

上記第1の身体内腔は、胃または十二指腸を含み、上記第2の身体内腔は、胆管または膵管を含む、項目2に記載の方法。

(項目5)

上記第1の身体内腔は、胃または十二指腸を含み、上記第2の身体内腔は、胆嚢を含む、項目2に記載の方法。

(項目6)

上記ガイドワイヤを上記第1の身体内腔を通して前進させることは、送達シースを該第1の身体内腔内に配置することと、該ガイドワイヤを該送達シースの内腔を通して前進させることとを含む、項目1に記載の方法。

(項目7)

上記送達シースは、内視鏡を備え、上記方法は、該内視鏡を使用して、上記第1の身体内腔の壁を視認することと、該壁を視認しながら、該内視鏡内腔を上記標的部位に配置することとをさらに含む、項目6に記載の方法。

(項目8)

上記ガイドワイヤは、剛性であることにより、上記第1の身体内腔は、該ガイドワイヤの形状に適合する、項目1に記載の方法。

(項目9)

上記ガイドワイヤは、十分に可撓性であることにより、上記第1の身体内腔の形状に少

なくとも部分的に適合する、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 0)

貫通させることは、上記ガイドワイヤを介して組織貫通先端を上記身体内腔壁を通して前進させることを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 1)

貫通させることは、ガイドワイヤを事前に形成された貫通部を通して前進させることを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 2)

アンカを拡張することは、上記第 2 の身体内腔の壁に隣接する側に凹面を有するアンカを拡張することを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 3)

上記ツールを前進させることは、上記アンカが拡張された状態のまま、および張力が上記ガイドワイヤに印加された状態のまま、該ツールの遠位端を該アンカの凹面内に前進させることを含む、項目 1 2 に記載の方法。

(項目 1 4)

アンカを拡張することは、バルーンを膨張させることを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 5)

アンカを拡張することは、機械的な要素または構造を再構成することを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 6)

上記ガイドワイヤが、上記身体内腔壁を通して貫通させられる前またはその間に、該ガイドワイヤを介して刃を展開することをさらに備え、該刃は、上記貫通部を拡大させる、項目 1 に記載の方法。

(項目 1 7)

遠位端および近位端を有するガイドワイヤ本体と、
該ガイドワイヤ本体の該遠位端近傍の拡張可能アンカと、
該拡張可能アンカに隣接してガイドワイヤに配置される刃であって、該ガイドワイヤ本体内部における後退構成と、該ガイドワイヤ本体の外側に延出する刃先を有する展開構成とを有する、刃と
を備える、ガイドワイヤ。

(項目 1 8)

上記ガイドワイヤ本体は、100 cm 乃至 500 cm の範囲の長さ、0.4 mm 乃至 5 mm の範囲の直径とを有する、項目 1 7 に記載のガイドワイヤ。

(項目 1 9)

上記ガイドワイヤ本体は、中実コアを有する、項目 1 8 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 0)

上記ガイドワイヤ本体は、中空である、項目 1 8 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 1)

上記拡張可能アンカは、膨張可能バルーンを備える、項目 1 7 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 2)

上記拡張可能アンカは、展開可能機械的構造を備える、項目 1 7 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 3)

上記刃は、拘束から解放されるときに、開放するように偏向される、項目 1 7 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 4)

上記後退構成と上記展開構成との間で上記刃をシフトさせる機構をさらに備える、項目 1 7 に記載のガイドワイヤ。

(項目 2 5)

上記刃は、上記拡張可能アンカに対して遠位に配置される、項目 1 7 に記載のガイドワ

イヤ。

(項目 26)

上記刃は、上記拡張可能アンカ内に配置され、該アンカは、第1の半径方向に開放し、該アンカは、該第1の半径方向から放射状にオフセットされた第2の半径方向に開放する、項目17に記載のガイドワイヤ。

(項目 27)

上記ガイドワイヤ本体は、組織貫通先端を有する、項目17に記載のガイドワイヤ。

(項目 28)

上記ガイドワイヤは、操縦可能先端を有する、項目17に記載のガイドワイヤ。

(項目 29)

遠位端および近位端を有するガイドワイヤ本体と、

該ガイドワイヤ本体の該遠位端近傍の拡張可能アンカであって、該拡張可能アンカは、該ガイドワイヤ本体の外部表面に適合する後退構成と、遠位表面および近位表面を有する拡張構成とを有し、該近位表面は、周辺縁および該周辺縁内に凹面を有し、該周辺縁が、組織表面に対して近位に牽引されることが可能であることにより、該凹面は、該ガイドワイヤ本体の周囲に作業空間を画定する、拡張可能アンカと

を備える、ガイドワイヤ。

(項目 30)

上記ガイドワイヤ本体は、100cm乃至500cmの範囲の長さ、0.4mm乃至5mmの範囲の直径とを有する、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 31)

上記ガイドワイヤ本体は、中実コアを有する、項目30に記載のガイドワイヤ。

(項目 32)

上記ガイドワイヤ本体は、中空である、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 33)

上記拡張可能アンカは、膨張可能バルーンを備える、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 34)

上記拡張可能アンカは、展開可能機械構造を備える、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 35)

上記拡張可能アンカは、1mm乃至20mmの範囲の周径を有し、上記凹面は、0.05ml乃至1mlの範囲の体積を有する、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 36)

上記凹面は、上記カテーテルシャフトに取着された頂部と、該カテーテルシャフトの周りにあって該頂部に対して近位に略同心円状に配置される周辺基部とを有する略円錐形を有する、項目35に記載のガイドワイヤ。

(項目 37)

上記ガイドワイヤ本体は、組織貫通先端を有する、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 38)

上記ガイドワイヤ本体は、操縦可能先端を有する、項目29に記載のガイドワイヤ。

(項目 39)

上記拡張可能アンカは、柔軟な本体を有するバルーンを備える、項目29に記載のガイドワイヤ。